

市制施行70周年
合併15年 特集号

全世帯配布

No.304-1969(定価5円)
8月15日発行
昭和26年7月6日第三種郵便物認可
発行所・会津若松市役所
発行人・松本善夫
編集・総務部市長公室広報係

市政だより



可能性にみちた会津の創造

会津若松市長 高瀬喜左衛門



会津若松市が誕生してから、幾多の困難を乗り越えた先人の光栄ある歴史のうえに、市制施行七十年を迎えたこの喜びを、市民の皆さまと共にわかちあいたいと存じます。

この喜びを記念し、市立会津図書館がこのたび完成し市民の文化向上のため、大きな力を發揮するものと信じます。さらに本年は鶴城小屋内体育館の建設、日新小通学用地下道建設など教育施設の充実や、公害のない工場として、リズム時計工業を誘致したのを始め、新たに開所された会津総合職業訓練所および、拡充整備された県工芸試験場の総合活用による地元産業の振興を図ると共に、土地基盤整備事業による農業の近代化に努めて来たところでございます。

いうまでもなく、地方自治の精神は、こうした住民本位の立場からの市政を行うことにあり、複雑さを増しつつある市民生活の福祉の増進に、今後ともあらゆる分野に努力を傾注する所存でございます。

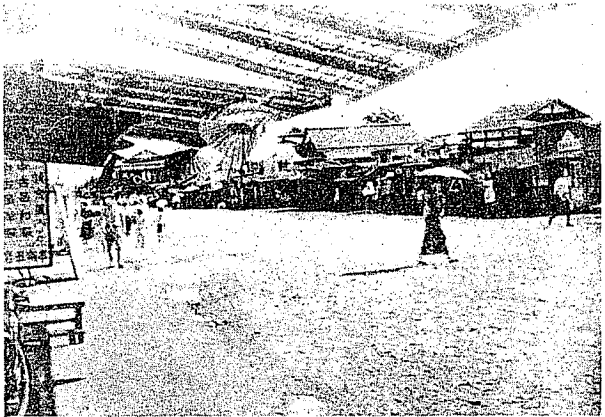
さらに、この機会に会津に住む私達が考えなければならぬことは単に会津若松市のみだけでなく、会津盆地という広場の中で一緒に手をつなぎ、外部からの障害に出会って始めて形づくられる団結のみでなく、可能性にみちた未来を創造しようとする共通の目的から自然に生まれる団結、すなわち「美しい会津の心」を育てて行くことこそ、当市が会津の中核都市として成長するために、大きな意味を持つてくることとあります。

この記念すべき年を契機として、私達は過去を反省し未来を見極め、真に市民のための市政を築きあげたいと念願する次第であります。

市政七十年の歩み

年号	月	主なできごと
明治32	7 4	若松に市制施行さる。 岩越鉄道、郡山―若松間が開通。 若松にはじめて電灯がつく。 蒸気ポンプはじめて購入さる。 岩越鉄道国有化さる。 歩兵第六五連隊若松入営 岩越線が新津まで開通。 若松に米騒動起る。
大正3	41 39 33	岩越線が磐越線と改名された。 歩兵六五連隊が廃止、二九連隊が移った 野口英世がアフリカのガーナで死亡。 若松の上水道完成。 会津線田島まで開通。 市役所庁舎が落成。 米軍約二、〇〇〇人が若松に進駐した。 七日町駅新設さる。 消防署設置さる。 会津野球場完成。 第一回の成人式が行なわる。
昭和3	14 10 7 4	県立会津短大が若松市に開校。 七カ村合併、市名が会津若松市と改名。 スカイライン開通。 市民会館、公民館新築さる。 東北開発会津ヘッドボード工場完成。 会津若松駅新装落成。 電話が自動式に切り替えらる。 天守閣再建さる。 漆器工場団地完成。 国道四九号バイパス完成。 磐越西線電化さる。 戊辰百年記念で市花「あおい」が制定。 会津計算センターが完成。 富士通会津工場が完成。 会津若松市民憲章制定さる。 会津総合職業訓練所完成。
昭和9	25 24 23 20 12 9 4	
昭和12	9 9	
昭和19	21 3	
昭和20	1 10 8	
昭和23	10 6 11 5	
昭和24	7 4	

70年



戦争中疎開道路としてひらかれた昭和23年ごろの神明通り。今や当時の面影はひとつもない。



昭和3年、秩父宮と松平勢津子姫との婚儀が行なわれ朝敵の汚名が一掃された。



昭和18年、出征兵士を送る。戦争がはげしくなるにつれ、このような風景は毎日のように見られた。

公害のない工場として誘致した精密工場、未来に伸びる本市の新しい顔の一つである。



◇町制から市制へ

明治三十二年四月一日、この日、県下初の市制が施された若松は、喜び一色に湧きかえっていた。七月には、会津人の悲願だった岩越線が開通し、文字通り、この年は明るいニュースで明け暮れた。

三十七年、日露戦争に突入、その四年後には、歩兵第六五連隊が設置され、若松はしだいに軍都の色を濃くしていった。

◇近代工業の進出

富国強兵、殖産興業を旗印に急速な発展をとげたわが国は、やがて産業革命を迎える。その波は、しだいに会津にも及び、大正の初め、猪苗代湖の豊富な電力に目をつけた日本化学、広田製鋼などの大企業が相ついで進出するなど、近代化をひた走る会津の面目躍如たるものがあつた。折から第一次大戦のぼつ発によつて、かつてない好景氣を迎えたが、戦後の反動恐慌は未曾有の不況をまねき、社会不安はいやが上にも高まった。

◇戦争への道

昭和は不況で幕が開いた昭和改元の翌春、金融恐慌の嵐が吹き荒れ、追いつちをかけるうちに世界恐慌が襲い、不況をいっそう深刻なものにした。市内の銀行の休業、取付があいつぎ、失業者は街にあふれた。

市政功勞者一覽

歴代市長、助役、収入役

小日山武夫、横山武、村井八郎、松崎誠、小沢清、丸山太郎、森武、清野清二、鈴木英一郎、大内功

歴代議長、副議長

星野昇七郎、鈴木寅藏、五十嵐豊作、佐藤光治、岸久吉、磯田政吉、四家豊治、高橋直幸、鈴木善九郎、星健吉、山口八郎、佐々木博鹿目仁久、矢内三治、河野和夫、大須賀英一

三期以上議員

荒木米、磯貝義恵、一ノ瀬直俊、遠藤四郎、大竹丑藏、小川茂喜、金井博文、佐藤忠清、永峯登末、二瓶頼一、松山高正、本間勝義三輪行治

議員待遇者

五十嵐ツナ、池部盛寿、猪俣良記、木村長一郎、国分孝一郎、小島忠左衛門、後藤喜代之助、佐々木和一、(故)鈴木忠助、中島政美

(故)成田延八、成田元英、長谷川忠好、林幸太郎、半沢半六

福西健次郎、福西清助、本田栄、松本新次、宮森常八(故)、山内芳美、吉田源吾、渡部静江、渡部稔

産業観光関係

相原幸広、穴沢惣一、江川善義、大越信、大原博、(故)大堀源吾、小沢武士

鹿目栄市、小松久作、斎藤清志、佐藤誠、鈴木広義、長谷川義雄、星正義、武藤忠、山浦美、渡部常治

社会民生事業関係

阿部好子、伊藤フチイ、遠藤哲也、大内カク、大島幸藏、大村トイ、加藤清作、金子チヨノ、神尾守、菊地八太、国立恵良、小林ヤイ、小林物造、小松幾世、佐々木勇、佐藤武夫、佐藤光衛三瓶キヨ、(故)篠田幾四郎、霜島幸伊、鈴木茂雄、高橋薫、田中由伊、中島貞雄、中野キエ子、成田ヨシ芳賀美登利、蓮沼一夫、長谷川喜作、長谷川甚四郎、林平八郎、坂内捨次郎、藤井ミツ、古沢嘉善、星緑、正本秀子、増井武雄、万沢はる、三浦熊三郎、皆川交記、宮原武夫、室井千秋、本島茂平、山室タカ、(故)吉田一、渡部寿学、渡部利吉、和田フク

選挙関係

丸山源栄

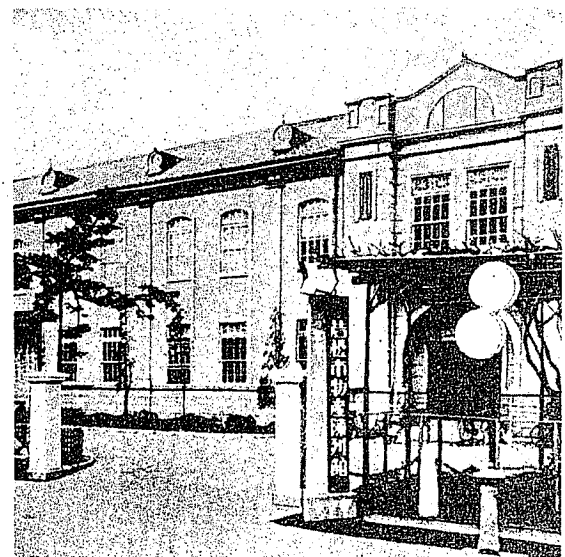
納税関係

相田義松、相原市太郎、秋山四郎、秋山利雄、穴沢四郎、五十嵐幸正、池田武末、石川清藏、石橋徳治、石本晴吉、逸持治日出夫、一ノ瀬又治、遠藤一郎、遠藤精司、遠藤時美、遠藤徳左衛門、(四頁につづく)

明治・大正・昭和 写真で



明治41年6月、歩兵第65連隊が入営、運都としての第1歩を踏み出した。



大正10年、大正天皇即位御大典記念として建設された会津物産館と公会堂。



大正3年、国鉄磐越西線が新津まで全通、街中喜びに包まれた。

六年満州事変、十二年日中事変とあいついで戦争と恐慌に揺れる世相を反映して、ファツンズムの芽がしだいに頭をもたげた。

十六年十二月八日、太平洋戦争はつ発、戦時体制が強化される。国民は「聖戦」の名の下に、「欲しがりません勝つまでは」の耐乏生活を強いられ、世の中は「星に錨に顔」がはばをきかせた。戦いは血みどろの死闘をくりかえしながら、二十年八月十五日、惨たる敗北のうちに、ついに終止符をうった。

◇戦禍のなから

二十一年天皇の人間宣言新憲法の公布、翌年には六・三制が施行され、民主国家への衣がえは急速にすすめられる。

三十年、門田村を初めとした七ヶ村を合併、若松はその名を「会津若松」と改め、軍都の面目を一新し、十萬都市として新しいスタートを切った。

三十六年ハード、ボードを皮きりに大企業の誘致をはかるいっぽう、すでに開通をみた滝沢バイパスなどの道路網の整備が着実にすすんでいる。

四十年には、鶴ヶ城天守閣が再建され、戊辰の炎に落ちて百年にして、再びその壮麗な姿によみがえった。四十二年には、会津計算センターが完成、新しい時代の夜明けを告げた。

市政功勞者一覽

納税関係

大島義一郎、大竹一、大森政雄、小椋ヨシノ、小沢勝馬、神山喜右衛門、蒲生悠成、菊地義雄、北島右馬助、木村清義、栗城一雄、栗城代助、黒河内清介、小林清次、小林秀次、小林要二、小山春寿、斎藤一郎、佐々木清、佐々木孝、佐竹善美、佐藤一雄、佐藤文雄、佐原豊八郎、鈴木岩雄、鈴木清、鈴木進助、鈴木新太郎、鈴木清一郎、鈴木貞治、高塚ヨシ、高橋義雄、高見敬三郎、外池与七、富樫八十吉、寺木清力、二瓶金四郎、二瓶由雄、沼田泰二、羽金幸平、原正、沼沢清山、坂内清、半野寿、伴野寿、平出繁雄、福島喜四郎、布家善八、藤田光広、藤細常次郎、古川一二、古川倉吉、古川恒雄、星丑吉、星賢蔵、星善五郎、松本富雄、松山秀雄、水野清、満田進護、宮野要作、矢仲喜輔、山口一郎、横倉長吾、横山三作、横山武蔵、吉岡登、吉田武雄、渡部忠助

教育関係

浩、渡部康平、渡辺嘉明、文化事業関係 有本小三郎、大竹五郎、佐瀬進、鈴木利満、関谷彦蔵、中村教綱、山口孝平、赤井朝止、五十嵐竹雄、加藤栄喜、河野善次、河野善助、菅家忠男、君亀吉、菊地三郎、木野庄次郎、紀国千秋、葛岡禎輔、小林美登理、小林喜一郎、小池義男、小町公賢次、五ノ井哲弥、佐藤市作、佐藤喜代見、佐藤甲作、佐藤甚吾、佐藤豊太郎、斎藤栄、三瓶喜八郎、笹内清八、新城長輔、新城竜三、鈴木国三郎、鈴木光次、鈴木秀雄、関正平、関本文吉、高島一正、塚原幸一、東条茂八、長原民雄、内藤満、新井田富一郎、仁礼操、能登小四郎、林重彦、林平蔵、羽賀忠吉、泰留四郎、羽金与八、馬場武五郎、広瀬鉄弥、樋口伝、藤野純船田藤松、星栄作、星義八郎、松本達順、松本忠四郎、松下進一、宮森啓治、皆川義丸、森川作左衛門、山口慶吾、山口元興、山寺鉄吉、山内治郎、吉沢佐徳、吉武幸雄、渡部健蔵、渡部清治、渡部徳平、和田博

その他の市政功勞者

阿部要造、遠藤佐太次郎、佐瀬善四郎、齊藤正雄、竹田虎雄、徳田錦泉、中川七郎、芳賀留蔵、星常平、矢沢繁雄、林忠郎、大原庸一、黒坂四郎、矢仲武三郎、阿部武雄、佐藤賢輔、星弘忠、平野治

消防団員

右衛門、成田正朗、遠藤清一、福島幸一、神林清士、宮下憲二、野矢南、小柴源一、小山幸一、大堀森三郎、深谷慶造、吉沢由家、佐々木正夫、佐瀬吉晴、秦年男三郎、川村金一郎、秦年男白井富次、遠藤春雄、渡部善治、近藤太市、井上徳美、佐藤政義、小林千代治、雪野重信、関本佐代志、加藤善喜、渡部祐三、渡部賢一、佐藤忠且、日下部詢、渡部但、渡部保、安部融、荒井沢次、平岡清、半沢富男、菊地博喜、穴沢甲、吉田正忠八、岩沢幸男、千葉喜作、佐藤一美、大原博義、鶴川久雄、遠藤重夫、独古行雄、穴沢嗣男、大竹福一、森秀三、佐々木昭、大島正美、斎藤実、浅井力、佐々木隆村進一、渡部昭一

市職員

佐藤久之助、猪股精男、神内義則、尾原美智子、鈴木英一、小柴勇虎、伊藤清重、斎藤泰雄、寺木清力、星恒治、長谷川忠、星義助、佐藤哲、大関鉄男、長谷川道雄、三樹夫、小高肇、鹿吉久亥、渡辺重通、根本捨吉、遠藤胤次、三鈴テル、長谷川精男、高橋利与、富田保子、二瓶善行、松沢源市、渡部厚衛、山田敦、小椋栄一、トミ、上田庵子、坂場ナミ、井城正一、小林英雄、荒木義夫、佐藤信道、渡部孝、中村サダ子、馬場キミ、長谷川英子、七海照子、壁谷ヨシ、浅井晶子、井上兵一

石川正、小野マサ子、吉田マサ子、行徳三郎、渡部久一、大島久男、岩沢善喜、歌川常作、武藤喜代治、宮川五郎、遠藤彦四、小沼賢輔、春日喜代一、笹吉三、渡部勝介、荒井浪江、古川英二、鈴木徳三、上野貞夫、中川三郎、加藤金次、本間辰雄、丸山良秀、遠藤幸男、吉川繁、渡辺栄一、田崎文光、宮沢敏夫、新城辰五郎、広沢要、山内健寿、貝フサ、石井源佐、高島好昭、菊地豊市、大塩貞雄、長谷川正夫、太田一郎、渡部博氏、秋山和蔵、星亨、佐藤次郎、五ノ井忠三、鈴木二郎、渡部宏、堀文伍、穴沢達三、石川トシ、鈴木チチ、佐藤ミツイ、叶沢周子、高島保次、河原正雄、神田一郎、宮崎健二、佐々木寅吉、渡部八郎、松本進三、日下部治夫、高橋博、小椋五郎、五十嵐久、浦沢西蔵、内山儀雄、山口武、大竹時正、吉川保男、大塚勲、降矢春次、渡部寅四郎、石川進亮、越田長喜、箭内栄一、片野義美、小松正勝、関根徳一、塩谷恒雄、山内正夫

昭和二十六年

町北村合併功勞者 横山武、小沢清、森武、(故)猪瀬十太郎、梁取菊蔵、(故)山内四郎、秋田耕輝、(故)五十嵐丑之助、片平忠助、(故)柏木信一、(故)小林喜四郎、佐久間正男、斎藤英二、鈴木寅蔵、成田忠作、(故)羽染弥吉、本田栄、星久也、宮森常八、雪野重助、(故)渡部基市、(故)石井長喜、遠藤忠三、佐藤忠清、酒井際、鈴木安雄、鈴木文記、(故)鈴木久作

鈴木俊夫、(故)根本長陸、長谷川喜江治、(故)船窪順恵、(故)武藤幸一郎、山内清美、(故)吉野栄、渡部喜一、渡部吉宗

昭和三十年

七力村合併功勞者 村井八郎、丸山太郎、鈴木英一郎、(故)穴沢喜六、五十嵐甚左衛門、渡部弥徳、(故)佐竹賢吾、(故)白岩常明、星公、鈴木正行、(故)榎木魁、横山義二、(故)吉田虎市、永井常一、春日部規、佐藤孫一、(故)古川一、(故)渡部祐之、尾崎久衛、(故)宮島緑、(故)武井正、(故)小林岩記、佐藤武夫、佐々木辰次、五十嵐豊作、磯田政吉、(故)大須賀末八、河野和夫、(故)亀谷輝雄、(故)河原田実、川島直次、岸久吉、木村長一郎、小島忠左衛門、佐藤光治、佐藤喜雄、佐藤稔、佐々木博、佐々木和一、四家豊治、(故)田中勲一、高浪武雄、高橋直幸、成田延八、成田元英、中島政美、(故)中川源三郎、林幸太郎、半沢半六、福西清助、(故)古川佐寿馬、(故)星野武、星野英二、(故)増山清、宮崎長八、山浦実、吉田源吾、(故)渡辺重一、穴沢利雄、大竹丈夫、小椋山二良、佐藤力、(故)佐藤留蔵、佐藤太郎、(故)佐藤寅之助、佐藤嘉吉、遠山文一、二瓶頼一、坂内捨次郎、(故)星西之助、堀内新治、(故)室野井八栄、渡部善造、(故)穴沢茂、遠藤寿、小沢武士、大竹義意、(故)大堀源吾、鹿目仁久、鹿目

栄一、(故)川島定一、小林久八、小山熊一、白岩辰之進、二瓶由雄、二瓶喜一、星栄、星正義、(故)三星毅、安斎貢、石村義雄、小沼貞子、大堀義正、菊地八太、小松良雄、(故)佐久間清、(故)神林義秋、田村熊次、中川清吾、馬場肇、馬場尚一、(故)古川正雄、山口佐代治、米畑義治、吉川藤吾、(故)石井儀八、岩田新市、石田徳吾、池部盛寿、(故)江川源八、(故)大竹伊和美、(故)斎藤敏男、(故)佐藤義夫、高橋準人、(故)古川与之吉、(故)古川義馬、吉川千代記、天川豊、五十嵐辰次郎、(故)石井元、岩沢元寿、市川栄、小沼磯一郎、小沼佐七、(故)大盛正善、加藤清作、(故)木村喜一、(故)鈴木勇、(故)永島徳伊、二瓶六郎次、二瓶安美、橋本一男、古川功蔵、(故)阿部丑次、一ノ瀬惣蔵、市川佐太市、(故)伊藤重次、猪俣良記、(故)岩淵仙市、大関源治、鹿目信男、(故)神田安太郎、菊地貞次、城戸庄美、小山浩、鈴木正、須佐清、永峯春喜、成田市英、樋山喜代四、(故)福島千作、山中喜代市、山浦清作、矢辺熊三、石原儀平、(故)川瀬一蔵、川瀬孝蔵、小林善七、近藤初太郎、佐藤鹿蔵、(故)佐藤力次、斎藤源語、(故)佐々木伊三、(故)古川修一郎、三星市次、吉川景亮、渡部善蔵、渡部与四郎、渡部新次